

NEXT CONCERTS

>> 次回東京定期演奏会

第 **775** 回

サントリーホール

2025年**10月31日(金)**19:00開演 18:30~

プレートク 奥田 佳道氏

11月 1日(土)14:00開演 13:20~

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

想いを紡ぐ炎のコバケン、
70周年へ向けて贈る特別な響き

指揮: **小林 研一郎** [桂冠名誉指揮者]

ヴァイオリン: **千葉 清加**
[アシスタント・コンサートマスター]

ヴィオラ: **安達 真理** [客演首席奏者]

モーツァルト:

ヴァイオリンとヴィオラのための
協奏交響曲 変ホ長調 K.364

—渡邊暁雄先生を偲んで

シベリウス: 交響曲第2番 二長調 op.43



©井村 重人

1回券料金 S ¥9,500 A ¥8,000 B ¥7,000 C ¥6,000 P ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

©山本 倫子

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

小林 研一郎 編

きき手 伊熊 よし子

恩師・渡邊暁雄から受け継いだシベリウスの魂、コバケンが全身全霊を傾けて演奏する

国内外で活発な活動を展開している指揮者の小林研一郎(愛称コバケン)が、日本フィルハーモニー交響楽団の東京定期演奏会で、モーツァルトのヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲とシベリウスの交響曲第2番というプログラムを披露する。その演奏に向けて作品と対峙する姿勢、解釈などを伺った。

「モーツァルトの協奏交響曲はふたつの独奏楽器がオーケストラとともに響き合い、両者が雄弁な音の対話を繰り広げる作品です。モーツァルトは華やかなヴァイオリンと深々としたヴィオラという音色の違いがうまく使い分け、それぞれの楽器の特質を存分に生かしています。こういう作品は、ソリス

トもオーケストラもできる限りの力を振り絞っていい演奏をしようと心がけ、聴衆もモーツァルトの作品のすばらしさを味わおうと思って集中して聴いてくれます。ですから、僕もその熱意に応えられるようモーツァルトの作品のよさを存分に表現できるよう、最高の演奏を生み出したいと考えています」

今回のソリストは日本フィルが誇るヴァイオリンの千葉清加、ヴィオラの安達真理が務める。安達真理の調弦はオリジナルのスコラダトゥーラで全曲演奏予定している(初挑戦)。

「ふたりともすばらしい奏者で、千葉さんとはモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番で共演したことがあります。友人が書いたというカデンツァを用い、すばらしくいい音を披露しました。それを聴いてオーケストラも力を尽くしてくれ、心が打たれました。安達さんの初挑戦にも大きな期待をしています」

シベリウスの交響曲第2番は渡邊暁雄が得意とし、日本フィルの社歌とも呼ぶべき作品。1961年に渡邊暁雄指揮日本フィルが世界初の交響曲録音を行ったなかに収録されている。

「シベリウスの交響曲第2番は、1995年に初めてチェコ・フィルを指揮して録音した思い出深い作品です。録音当日、ドヴォルザーク・ホールにヴァーツラフ・ノイマン先生が現れ、オーケストラが凛とした姿勢で演奏し、僕もそれに触発されてとてもいい録音が出来上がりました。この交響曲は渡邊暁雄先生と山田一雄先生から指導を受けましたが、ふたりともとても厳しく、渡邊先生からは「君を蹴っ飛ばしたくなる」といわれ、山田先生は「君が嫌いだ」と半年間も口をきいてくれなかった(笑)。早く自分たちのような音楽ができるように頑張れ、「早くここまで来いよ」という、愛のムチだったと思っています」

それでは、第1楽章から第4楽章まで、どのような思いで作品と向き合うのだろうか。

「まず、第1楽章のホルンが宇宙の遠くから聴こえてきて、二長調なのに二短調のように聴こえる、その不思議さ。チェコ・フィルのときは、あまりに美しいホルンの響きに涙が止まりませんでした。第2楽章はコントラバスとチェロが波のように押し寄せ、それは地底から響いてくるよう。僕は子どものころ、父親から高波が押し寄せてくるため早く逃げろといわれた、その波の押し寄せる状況が思い出されます。第3楽章になると、ヴァイオリンが“今度は自分たちも”と音をたぎらせる。ここでは、僕は弦の元を使ってたたくように、という指示を出しますが、チェコ・フィルのときもこの新たな方法に楽員がみんな喜びの表情を見せてくれたことを思い出します。そして第4楽章は、すべての楽器が美しい祈りを捧げるように崇高な音楽を奏でます。渡邊先生が向こうの世界から叱咤激励している様子が見えるようですので、その思いに応えられるよう、心を込めて演奏します」

コバケンの全身全霊を傾けたシベリウスは、聴き手も涙がこぼれるに違いない。